

エラブウミヘビ属と見られるウミヘビの混獲事例

海洋生産技術担当 石川陽子

Key word; は虫類、毒蛇、危険生物、ウミヘビ

は虫類ウミヘビの混獲

令和 7 年 9 月 11 日に、阿南市の椿泊漁協で、は虫類のウミヘビが混獲されました(写真 1)。蒲生田岬南側に設置された定置網で、他の魚とともに氷^レされた状態で港に水揚げされたそうです。体長は 85.5 mm、体重は 380g で、小さな頭、ひれ状の尾、青と黒の縞模様が特徴的です。専門家による写真鑑定ではエラブウミヘビ属のウミヘビであろうとのことですが、2025 年 9 月末現在、正確な種は未同定です。当該個体は今後、四国のウミヘビ事例を調査している高知大学で詳しく調べていただいた後、標本として徳島県立博物館に寄託することとなっています。

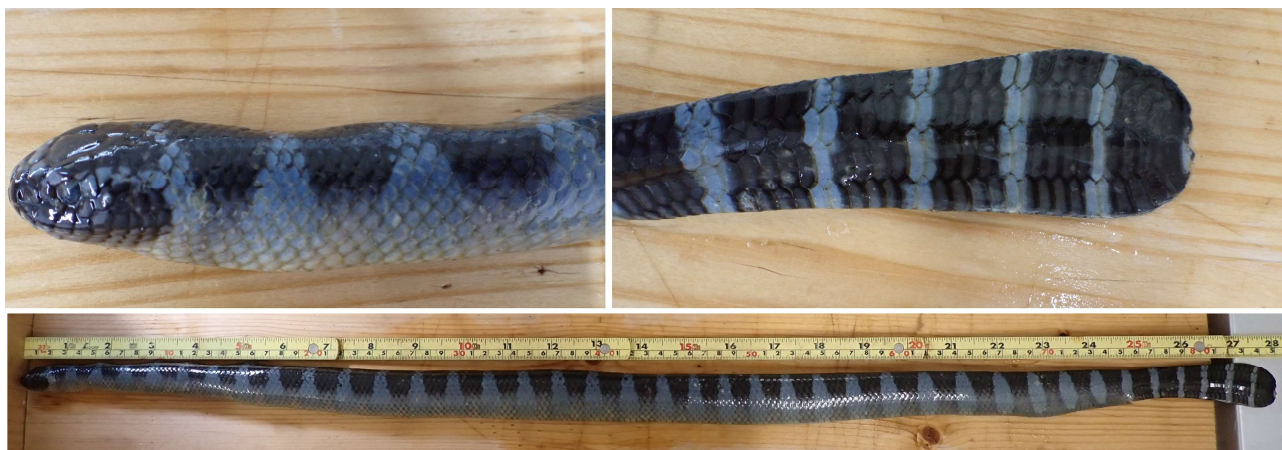


写真1 椿泊で混獲されたウミヘビ

ウミヘビには、ハモやニホンウナギの仲間である魚類のウミヘビ科のウミヘビ(魚類ウミヘビ)と、マムシやアオダイショウ等のような、は虫類のウミヘビ(は虫類ウミヘビ)とがいます。紛らわしいですね。魚類ウミヘビは、徳島県海域でもホタテウミヘビやダイナンウミヘビなどが比較的普通に見られ、底曳き網や定置網等で混獲されます。一方、は虫類ウミヘビは、ほとんど例がありません。

なお、魚類ウミヘビは鋭い歯を持つものの無毒ですが、は虫類ウミヘビの多くが毒蛇です。生きた個体を手荒に扱わない限りは咬まれるようなことは無いといわれていますが、もし見つけても触ったり近づいたりしないようにしてください。

過去の事例

徳島県立博物館の資料データベースによると、徳島県内で得られた^{ぬの}は虫類ウミヘビの標本が過去に2例あることが判りました。1例はエラブウミヘビ *Laticauda semifasciata* で、2003 年 8 月 13 日に海部郡由岐町(現在の美波町)の籠野島でとれたもので、もう1例はマダラウミヘビ *Hydrophis cyamocinctus* で1988 年 10 月に阿南市椿町蒲生田でとれたものだそうです。

また、今回の混獲事例を受けて改めて聞き取ったところ、2009 年 11 月 20 日頃にも今回と同じ椿泊漁協で混獲されたことがあったことがわかりました(写真2)。ほかにも、子供の頃に牟岐町出羽島で見たという 50 代の水産研究課職員もいました。は虫類ウミヘビは、非常にまれではあるものの、徳島県海域でもみられることがある生き物のようです。国立研究開発法人森林研究・整備機構の四国産爬虫類目録によると、エラブウミヘビもマダラウミヘビも、日本では南西諸島沿岸に生息し、まれに九州や本州付近でも採取されることがあるようです。海流に流されて来るのだらうと推測されますが、気候変動の影響で生息域が北に広がっている可能性は否定できないようで、先述の高知大学の調査研究の結果が待たれます。



写真2 2009 年の事例のウミヘビ

謝辞

今回は、椿泊漁協から情報をいただき、貴重なは虫類ウミヘビ事例を記録すると同時に標本を残すことができました。漁獲者の今本勝凡^{よしかず}様並びに漁協関係者の皆様に心より御礼申し上げます。また、2009 年の事例を記憶にとどめていただいた漁協職員の山下尚輝様、写真を御提供いただいた水産振興課鎌田様、誠にありがとうございました。

さらに、突然の依頼にかかわらず快く調査と標本化にご協力くださった高知大学の斉藤知己先生並びに大学関係者の皆様にも、重ねて感謝申し上げます。

参考文献

徳島県立博物館資料データベース

https://museum.bunmori.tokushima.jp/srch/srch_muse_doubutsu.php (2025.9.19 閲覧)

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 四国産爬虫類目録(2020)

<https://www.ffpri.go.jp/skk/kenkyushokai/kenkyuseika/documents/shikoku-hachurui.pdf>

読売新聞オンライン 死んでいても出す毒はハブの80倍、高知県でエラブウミヘビ発見…ペット飼育は禁止 2024/08/01 10:35

<https://www.yomiuri.co.jp/science/20240731-OYT1T50263/> (2025.9.19 閲覧)